

azbil

株主の皆さまへ

第88期 2010年3月期
上半期事業報告書

2009年4月1日～2009年9月30日



**企業体質の強化が着実に進展
株主重視の姿勢を維持**

株式会社 山 武

証券コード：6845

企業体質の強化を着実に進展させるとともに、株主重視の姿勢を維持します

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、生産や輸出に持ち直しの兆しも見え始めていますが、全体としては、依然厳しい状況で推移いたしました。当グループにおきましても、環境関連の規制強化によってオフィスなどの大規模建物を中心にCO₂排出量低減及び省エネを目的とした改修ニーズが高いビルディングオートメーション（BA）事業や、ガス・水道メータの定期的な更新需要が多くを占めるライフオートメーション（LA）事業は底堅く推移したものの、アドバンスオートメーション（AA）事業につきましても、製造業における設備投資の凍結・抑制傾向が継続しており厳しい事業運営を余儀なくされました。

この結果、売上高は934億6千8百万円と、前年同期に比べて16.2%の減少となり、損益面におきましても、経費削減の徹底等に取り組みましたが減収の影響は大きく、営業利益は14億8千7百万円と、前年同期に比べて77.6%の減少となりました。

しかし、当期における事業環境の厳しさは期初

より想定していたことであり、むしろこれを機会に、一層の体質強化に向け、およそ10,000名のazbilグループ社員が一丸となって各種施策の取組みを拡大、実践してまいりました。この結果、コスト構造の改革はもとより、将来の持続的成長へと繋がる生産性の向上や課題解決力の強化に大きな進展を見ることができました。

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心・快適・達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献する企業集団となることを企業理念に、段階を踏んで経営計画を展開してまいりました。「基盤を確たるものにする期（2007～2009年度）」と位置付けた中期経営計画の中、当期の取組みは、2010年度以降、azbilグループ発展の大きな礎になると確信しています。

なお、配当につきましては、現下、厳しい事業環境ではありますが、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けた利益配分に関する基本方針に基づき、1株当たり31円の間配当を実施いたしました。期末配当につきましても、期初の公表予想どおり1株当たり31円、年間では1株当たり62円の配当予想とさせていただきます。

私たちazbilグループは、株主の皆さまのご期待にお応えすべく不断の企業価値向上に取り組んでまいります。今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。

株式会社 山 武

代表取締役社長 小野木 聖二



上半期決算のポイント

景気悪化の影響があるものの、BA/LA事業への影響は軽微にとどまる

当上半期の概況

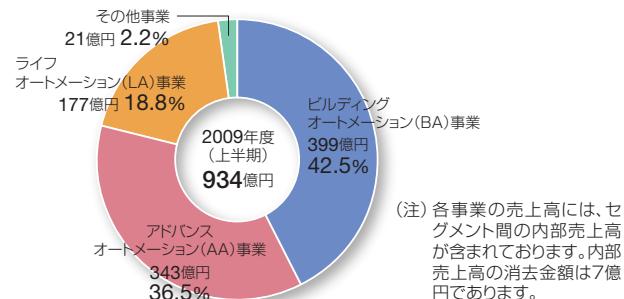
azbilグループは、それぞれに異なる景気サイクル下にある3つの市場で事業を展開しています。設備投資の動向に影響を受けるAA事業においては、設備投資抑制の傾向が続き、前年同期比で大幅な落ち込みとなりましたが、環境関連規制強化によりCO₂排出量低減や省エネニーズが高いBA事業やガス・水道メータの定期的な更新需要が多くを占めるLA事業においては、景気悪化の影響があるものの業績への影響は軽微にとどまりました。この結果、売上高は934億6千8百万円（前年同期比16.2%減少）となりましたが、利益面におきましては、体質強化と徹底した経費削減に取り組んだものの減収の影響は

通期の見通し

当第2四半期連結累計期間における当グループの業績は、前年同期と比べて減収・減益を余儀なくされましたが、期初より厳しい事業環境が想定されたため、経費支出を抑制しつつ、企業体質の強化に全社一丸となって取り組んできました。下半期においてもこれを強力に推進し、市場の変化に柔軟に対応できるよう万全の体制を整え臨んでまいります。これにより、下半期については、ほぼ期初計画どおりの業績を予想しており、通期の業績予想は、売上高2,120億円、営業利益106億円、当期純利益55億円を見込んでいます。

大きく、営業利益は14億8千7百万円（前年同期比77.6%減少）、経常利益は14億1千8百万円（前年同期比78.6%減少）、四半期純損失は2億7百万円（前年同期は33億1千2百万円の四半期純利益）となりました。

● 事業別売上高構成比



● 第88期(2010年3月期)業績予想

連結売上高	2,120億円	(前期比 10.2%減)
連結営業利益	106億円	(前期比 40.6%減)
連結経常利益	105億円	(前期比 38.8%減)
連結当期純利益	55億円	(前期比 42.3%減)
1株当たり配当金	年間62円(中間配当・期末配当とも31円)	

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	前期末 2009年3月31日現在	当上半期末 2009年9月30日現在
資産の部		
流動資産	160,956	142,573
固定資産	59,889	60,933
有形固定資産	29,836	28,943
無形固定資産	8,267	8,614
投資その他の資産	21,785	23,375
資産合計	220,845	203,507
負債の部		
流動負債	78,739	62,350
固定負債	17,122	16,233
負債合計	95,862	78,584
純資産の部		
株主資本	123,771	121,281
資本金	10,522	10,522
資本剰余金	17,197	17,197
利益剰余金	98,691	96,202
自己株式	△ 2,640	△ 2,641
評価・換算差額等	△ 217	2,145
新株予約権	—	1
少数株主持分	1,429	1,495
純資産合計	124,983	124,923
負債純資産合計	220,845	203,507

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

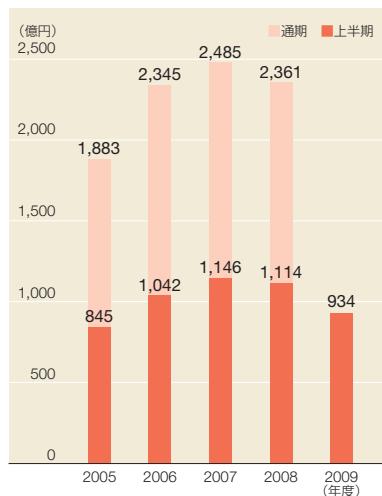
科 目	前上半期 2008年4月 1日から 2008年9月30日まで	当上半期 2009年4月 1日から 2009年9月30日まで
売上高	111,491	93,468
売上原価	70,709	60,808
売上総利益	40,781	32,659
販売費及び一般管理費	34,127	31,172
営業利益	6,653	1,487
営業外収益	550	542
営業外費用	579	611
経常利益	6,624	1,418
特別利益	3	0
特別損失	336	683
税金等調整前四半期純利益	6,291	735
法人税、住民税及び事業税	1,235	265
法人税等調整額	1,598	609
少数株主利益	145	68
四半期純利益又は損失(△)	3,312	△ 207

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

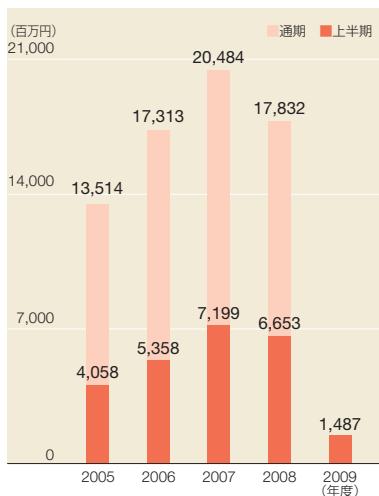
(単位：百万円)

科 目	前上半期 2008年4月 1日から 2008年9月30日まで	当上半期 2009年4月 1日から 2009年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,699	5,687
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,171	483
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,042	△ 3,723
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 285	272
現金及び現金同等物の増加・減少(△)額	△ 2,800	2,719
現金及び現金同等物の期首残高	49,256	44,321
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	58
現金及び現金同等物の四半期末残高	46,455	47,098

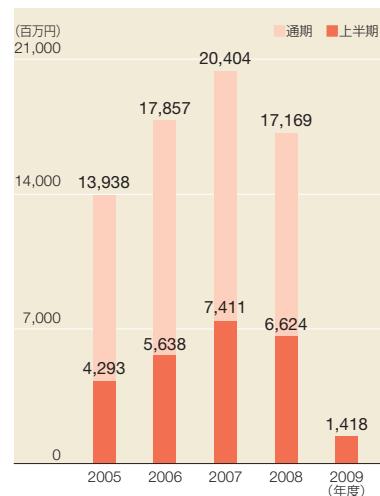
● 売上高



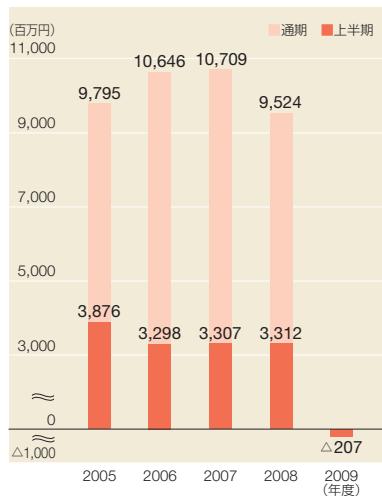
● 営業利益



● 経常利益



● 四半期(当期)純利益



● 営業利益率・四半期(当期)純利益率



● BPS(1株当たり純資産額)



ビルディングオートメーション事業 (BA事業)

サービス事業は堅調に推移
海外では市場の開拓が進む

売上高 399億円 (前年同期比: 4.6%減)
営業利益 20億円 (前年同期比: 39.6%減)

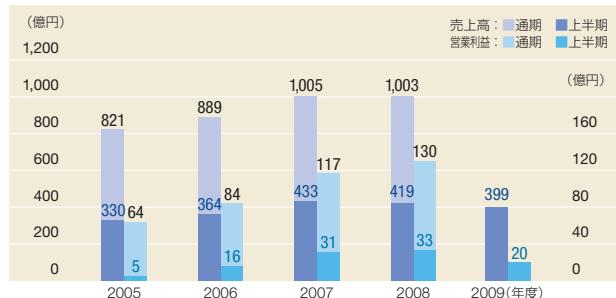
当上半期における事業環境

国内のサービス事業については堅調に推移しましたが、工場向け空調制御システムの販売などにおいて新規・既設建物市場が低迷し、国内のBA事業全体は減収となりました。

また海外においては、現地法人によるローカル市場の開拓が着実に成果を上げているものの、日系企業の投資冷え込みなどから業績は伸び悩みました。

この結果、売上高は前年同期と比べて4.6%の減少となりました。また営業利益は、サービス事業強化を目的にazbilグループ内からBA事業部門に人員シフトを行ったことによる費用増などから、前年同期と比べて39.6%の減少となりました。

● 売上高・営業利益



アドバンスオートメーション事業 (AA事業)

製造業の投資抑制が続き、
減収減益

売上高 343億円 (前年同期比: 27.5%減)
営業利益 △7億円 (前年同期営業利益: 34億円)

当上半期における事業環境

急激な景気悪化は収まりつつあり、海外での需要回復やリチウム電池などの環境関連分野への投資などが牽引する形で、一部市場には明るさも見え始めています。しかし、国内・海外とも生産水準や設備投資は過去と比較した場合、依然低い状況にあり、AA事業は厳しい事業運営を余儀なくされました。この結果、売上高は前年同期と比べて27.5%の減少となりました。損益面では、経費支出の削減に加え、AA事業の人的リソースをazbilグループ内で大規模に再配置するなど、大幅な固定費削減を進めましたが、減収の影響は大きく、営業利益は7億1千1百万円の損失となりました。

● 売上高・営業利益



ライフオートメーション事業 (LA事業)

利益体質の改善が進み 黒字に転換

売上高 **177億円** (前年同期比: 4.8%減)
営業利益 **2億円** (前年同期営業利益: △0.8億円)

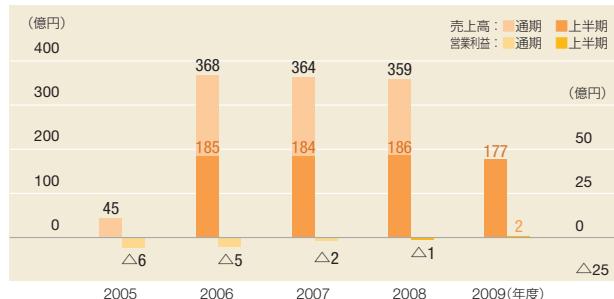
当上半期における事業環境

LA事業の売上の大半を占め、ライフライン分野の中核である株式会社 金門製作所は、定期的なガス・水道メータの更新需要があるものの、産業用都市ガス機器の販売などが景気悪化の影響を受けました。

一方、介護ケアサービス・緊急通報サービスなどのライフアシスト分野では、地方自治体の福祉関連予算の減少など、引き続き厳しい事業環境ですが、積極的な提案営業やサービス内容の拡充などにより事業は堅調に推移しました。

この結果、売上高は前年同期と比べて4.8%の減少となったものの、収益基盤改善を目的とした「金門・山武ジャンプアップ計画」の実施効果などにより、営業利益は2億8千1百万円と着実に改善しました。

● 売上高・営業利益



※ 2005年度は、株式会社金門製作所及び同社関連子会社の損益は含まれておりません。

国際事業

インド市場開拓のため 現地法人設立へ

海外売上高 **64億円** (前年同期比: 28.5%減)
海外売上高比率 **6.9%** (前年同期比: 1.1%減)

※海外売上高は各セグメントの内数を合計したものです。

当上半期における事業環境

中国等のアジア地域では回復に向けた動きが見られる一方、欧米地域では景気は依然として深刻な状況にあり、引き続き厳しい状況で推移しました。世界規模での景気後退及び円高の影響を受け、売上高は前年同期と比べて28.5%の減少となりました。

このような中、韓国設計事務所に出資し、BA製品の売上拡大を目指します。また、インドにおける新規現地法人設立の準備を進めています。

TOPICS

省CO2への関心の高まりから、BA事業の海外展開が加速 韓国の設計事務所「韓一MEC社」と出資契約を締結

同社は仁川国際空港などランドマークの設計を継続して手がけてきた韓国業界最大手。

日本同様、省CO₂への関心が高まる韓国で、「ビルディングオートメーションシステム savic-net™ FX」や「流量計測制御機能付きバルブ」など、環境負荷低減に貢献するシステム・商品を積極的に提案していきます。



山武瑞穂で既設電磁流量計の引取りによる校正を開始

電磁流量計の最新鋭一貫生産会社である株式会社 山武瑞穂は、お客さまの現場で使用されている既設の山武製電磁流量計の引取り校正を開始します。校正は、お客さまの指定流速や管理基準に合わせて柔軟に対応し、口径2.5mm～1,200mmまでの流量計に対応可能です。また、ポンプなどで流速を確保するのではなく、日本で最高レベルの設備である35mの高さのオーバーフロー型高架水槽により、ヘッド圧一定による脈動のない安定した質量法による最高レベルの校正を実施します。長期間で使用された電磁流量計を再度校正することにより、お客さまの電磁流量計を継続的にかつ高精度で使用できるようライフサイクルでサポートします。



山武商会、ブリヂストン社より感圧スイッチ事業を譲受

azbilグループの株式会社 山武商会は、株式会社ブリヂストンから、感圧スイッチ事業を譲受し、2009年11月より営業を開始いたしました。今回の事業譲受は、「人を中心としたオートメーション」のグループ理念のもと、「お客さまへの安心、快適を提供する」azbilグループの安全事業強化の一環です。

山武商会は、機械安全事業領域で25年間以上の実績があり、ブリヂストン社製の感圧スイッチについても5年以上の販売実績があります。

同製品は、作業者の安全確保（挟まれ衝突防止）等に使用され、国内での労働安全に対する意識の高まりから、近年その需要は拡大しています。

今回の事業譲受を機に、ブリヂストン社の顧客基盤を譲り受けることに加え、azbilグループの得意とする国内外の工業市場顧客に対して、計装安全、燃焼安全に加えて機械安全領域での事業を拡大します。



「日産スタジアムESCO事業」 最優秀提案事業者として選定

神奈川県横浜市が実施した「日産スタジアム（横浜国際総合競技場）ESCO事業」公募において、本年8月に当社と杉山管工設備株式会社の共同グループが最優秀提案事業者として選定されました。最優秀提案事業者に選ばれた要因として、既存の空調設備を活かし、ビル運用管理の現場での設備の調整、運転方法の改善及びごく小規模な改修で省エネ効果を上げる省エネチューニングや高効率冷凍機の導入と運転方法の最適化、照明機器のLED化、節水装置の設置など、比較的少ない初期投資で省エネルギー率も高く費用対効果が優れていることなどが評価されたことが挙げられます。当社提案事業を導入することで施設全体のCO₂排出量を22.9%、エネルギー使用量を22.1%削減する見込みです。

インドネシアの最先端インテリジェントビルに、 山武の最新ビルシステムを納入

Medco Group（メドゥコグループ）のApi Merta Graha（アピメルタグラハ）社がジャカルタに建設した最先端インテリジェントビル「The Energy」は、“グリーンかつ最もエネルギー効率の良いビル”をコンセプトに建設された最先端のオフィスビルです。

azbilグループのインドネシア法人であるアズビル・ベルカ・インドネシア株式会社は、インドネシア国内のホテル、大中規模ビルの省エネ設備改修工事を多数手がけており、その実績が高く評価され、Api Merta Graha社からビルディングオートメーションシステムsavic-net FX、統合型ビルディングマネジメントシステム及び省エネルギープログラムを一括受注しました。



サービスセンターを統合・新設

2009年10月1日、東日本BOSS・ホットラインセンター（神奈川県藤沢市）がスタートしました。同センターは、従来のBOSSセンター（オーナーに代わってビルの総合管理・保全を行う）とホットラインサービス（工場・プラントのお客さまからの緊急連絡窓口、24時間365日受付）を統合したサービスセンターです。これによりお客さまの課題解決をより効率的に図る体制を構築、よりの確で迅速・柔軟な対応が可能となりました。

なお、BOSSサービスは従来の「西日本BOSSセンター（大阪府大阪市）」に加え、都内サービス強化を目的とした「東京BOSSセンター（東京都豊島区）」の設置により全国3箇所の体制となり、大規模災害等の発生時においても安定したサービスを提供できるようになりました。



計装ネットワークモジュール「NXシリーズ」 ファクトリーオートメーション領域での計装提案力を強化

生産現場では、品質の確保とさらなる向上及び環境負荷低減への対応を担保しつつ、景気動向に合わせた生産量の変化、多品種少量生産や短納期化などの要請など、フレキシブルな生産に対応するため、臨機応変に生産工程の組替えに対応できる体制づくりが求められています。

計装ネットワークモジュール「NXシリーズ」は、製造設備やオートメーションシステム向けの制御コントローラ群です。全モジュールにEthernet通信機能を搭載し、モジュール間の連携制御や他の設備との情報集約化を容易にしました。さらに独自技術によりEthernetによる省配線を実現、高度な制御機能を持つモジュールを自在に選択・省配線にて接続することで、設備全体の効率化や省エネルギー化などに貢献する製品です。なお、本製品はその機能面、意匠などが総合的に優れた製品であると認められ、2009年度グッドデザイン賞を受賞しました。



「計測展2009 TOKYO」、 「システムコントロールフェア2009」への出展

azbilグループは、2009年11月に東京ビッグサイトにて開催された「計測展2009 TOKYO」と「システムコントロールフェア2009」に出展しました。両展示会は主にアドバンスオートメーション事業の伸展を図るとともに、グループ全社で連携してお客さまの課題解決に役立つソリューションを提案する場として位置付けられています。

azbilブースでは、グループ理念に則り「人を中心としたオートメーション」でCO₂排出量削減に向けてのエネルギー最適運用ソリューションや働く人々の安全・安心を見守るソリューションを紹介し、計測・制御関連業界におけるazbilグループの存在感を訴求しました。特に今回出展の目玉である計装ネットワークモジュール「NXシリーズ」の展示には多数の来場者が集まり、説明員との熱心な応答を含めて関心の高さを示していました。



計測展のazbilブースはエコデザインによりCO₂排出量を2005年比マイナス50%で運営しました。

伊勢原工場の屋上1,000㎡を天然芝で緑化

伊勢原工場の工場棟屋上の一部約1,000㎡を天然芝で緑化いたしました。工場棟の屋上総面積は約6,000㎡で、これまでもテニスコート(約700㎡)、人工芝(約600㎡)がありました。今回さらに約1,000㎡の高麗芝を追加、緑化率の向上を実施しました。天然芝広場として社員は休み時間に自由に入出りでき、フットサルやソフトボールなどの練習にも使用しています。天然芝の断熱による空調の省エネルギー効果も期待されます。伊勢原工場は太陽光発電や風力発電装置を設置して、クリーン電力で工場の電力需要の一部をまかなっていますが、今回の芝生散水設備についてもその電源に風力発電の電力を利用しています。



自主的な社会貢献活動 — azbilみつばち倶楽部が発足 —

azbilグループは社会貢献活動について「本業による社会貢献」と森林保全・海岸清掃などの「自主的な社会貢献」をグループの社会貢献として位置付け、推進しています。このたびグループ社員の自主的な社会貢献活動参加を促進するため、会社組織とは別の任意団体azbilみつばち倶楽部が設立されました。社員は同倶楽部に会員として参加することで給与から1口100円からの支援金を拠出し、会社が同額を支援します。積み立てられた支援金は会員の投票によって決定した支援先に寄付されます。

みつばち倶楽部という名称には、社員一人ひとりが小さな気持ちを少しずつ集めて、みんなが幸せになるような社会づくりを縁の下で支えたい、そんな想いが込められています。

azbilグループポータルサイト 「azbil.com」リニューアル

azbilグループは今年1月以来、「オートメーションってひとをシアワセにできるんだよ」をキャッチフレーズに企業広告を展開してきました。この10月からは、どんな場所でもどのように「ひとをシアワセ」にしているのかを、ビリー・一平・リサの3人の子供たちが紹介する広告へ切り替えました。

また、azbilグループポータルサイトでは、アニメーションを使って、「ひとをシアワセにするオートメーション」の一端をご紹介します。ぜひご覧ください。



■概要 (2009年9月30日現在)

商号 株式会社 山武
 英文商号 Yamatake Corporation
 創業 1906年12月1日
 設立 1949年8月22日
 資本金 105億2,271万6,817円
 従業員数 5,392人(連結 8,337人)
 事業内容 azbilグループは、人々の安心・快適・達成感と地球環境への貢献を目指す「人を中心としたオートメーション」を追求し、建物市場でビルディングオートメーション事業を、工業市場でアドバンスオートメーション事業を、ライフラインや健康などの生活に密着した市場において、ライフオートメーション事業を展開しています。

■事業所 (2009年10月1日現在)

●本社

〒100-6419 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 (東京ビル)

●ビルシステムカンパニー

東京本店、北海道支店、東北支店、北関東支店、茨城支店、東関東支店、横浜支店、長野支店、中部支社、北陸支店、関西支社、中国支店、九州支店、その他全国営業所等

●アドバンスオートメーションカンパニー

北海道支店、東北支店、北関東支店、東京支社、中部支社、関西支社、中国支店、九州支社、その他全国営業所等

●工場 その他

藤沢テクノセンター、湘南工場、伊勢原工場、品川ビジネスセンター、横浜配送センター、秦野配送センター、川崎オフィス

●海外支店 事務所

中東支店、インド駐在員事務所

■グループ会社一覧 (2009年10月1日現在)

●国内

株式会社山武
 株式会社山武商会
 山武コントロールプロダクト株式会社
 山武エキスパートサービス株式会社
 山武フレンドリー株式会社
 山武ケアネット株式会社
 安全センター株式会社
 熊本安全センター株式会社
 セキュリティフライデー株式会社
 原エンジニアリング株式会社
 株式会社金門製作所
 株式会社青森製作所
 和歌山精器株式会社
 白河精機株式会社
 株式会社金門白沢
 株式会社金門会津
 株式会社金門原町
 株式会社金門唐津
 金門環境設備株式会社
 北海道金門工事株式会社
 株式会社東北金門工事
 株式会社山武瑞穂
 ロイヤルコントロールズ株式会社
 株式会社太信
 株式会社テムテック研究所

●海外

アズビル韓国株式会社
 アズビル台湾株式会社
 アズビルベトナム有限会社
 アズビルタイランド株式会社
 アズビルフィリピン株式会社
 アズビルマレーシア株式会社
 山武エンジニアリング マレーシア株式会社
 アズビルシンガポール株式会社
 アズビル・ベルカ・インドネシア株式会社
 アズビル機器(大連)有限公司
 アズビル情報技術センター(大連)有限公司
 山武環境制御技術(北京)有限公司
 アズビルコントロールソリューション(上海)有限公司
 上海山武制御機器有限公司※
 アズビル香港有限公司
 上海山武自動機器有限公司
 YCP精密香港有限公司
 アズビルノースアメリカ株式会社
 バイオビジラントシステムズ株式会社
 アズビルヨーロッパ株式会社

※上海山武制御機器有限公司は、2010年1月(予定)に社名を変更し、上海アズビル制御機器有限公司となります。

■役員 (2009年10月1日現在)

代表取締役社長	小野木 聖 二	CEO、azbilグループ全般総括 監査室 担当
執行役員社長	斉藤 清 文	社長補佐、ビルディングオートメーション事業、 秘書室 担当
執行役員専務	佐々木 忠 恭	azbilグループ-CSR、内部統制、 内部統制推進部、財務部、管理部、総務部、 法務知的財産部 担当
執行役員専務	河内 淳	azbilグループ品質・環境負荷改善、 品質保証推進本部、環境・標準化推進部 担当
執行役員常務	猪野塚 正 明	azbilグループ営業シナジー、 アド/ンスオートメーション事業 担当 アド/ンスオートメーションカンパニー社長
取締役	安田 信	
取締役	ユージン リー	
取締役	池田 甫彦	
常勤監査役	鶴田 行彦	
常勤監査役	枝並 孝造	
常勤監査役	小林 倫憲	
監査役	藤本 欣哉	
監査役	田辺 克彦	
相談役	佐藤 良晴	
執行役員常務	曾禰 寛 純	全社マーケティング、経営企画部 担当 山武クアネット株式会社 代表取締役社長、 安全センター株式会社 代表取締役社長
執行役員常務	大久保 利 恒	国際事業、ドキュメント・プロダクション部 担当 国際事業推進本部長
執行役員常務	鷲 安由樹	人事部、業務システム部 担当
執行役員常務	廣岡 正	ビルシステムカンパニーマーケティング、開発 全社研究開発機能 担当
執行役員常務	船本 純 治	サービス事業 担当、サービス技術本部長 ビルシステムカンパニーファシリティ マネジメント本部長
執行役員	小川 定 親	環境事業推進部、新事業管理部、 ホームコンフォート部 担当 環境事業推進部長、新事業管理部長
執行役員	宮地 利 光	施設・事業所 担当 総務部長
執行役員	山本 晃 義	管理部長
執行役員	國井 一 夫	ビルシステムカンパニー計装本部長
執行役員	不破 慶 一	ビルシステムカンパニー第一営業本部長、 ビルシステムカンパニー東京本店長
執行役員	吉田 壽 夫	アド/ンスオートメーションカンパニー東京支社長 アド/ンスオートメーションカンパニー営業副担当
執行役員	細谷 卓 司	アド/ンスオートメーションカンパニー マーケティング、開発、品質保証 担当
執行役員	玉寄 長 務	azbilグループ購買機能 担当
執行役員	河合 真	azbilグループ生産機能、生産企画部 担当 山武コントロールプロダクト株式会社 代表取締役社長

■株式の状況 (2009年9月30日現在)

●発行可能株式総数	279,710,000株
●発行済株式総数	75,116,101株
●株主数	11,165名

■大株主

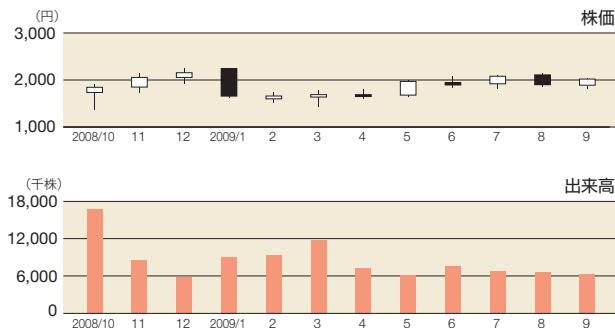
株主名	所有株式数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,109	10.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,151	8.32
明治安田生命保険相互会社	5,214	7.05
株式会社みずほコーポレート銀行	3,104	4.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,681	3.63

(注) 出資比率は自己株式(1,260,500株)を控除して計算しております。

■所有者別状況



■株価と出来高の推移



株主さまアンケートご報告

先般、第87期（2009年3月期）事業報告書において、株主の皆さまにアンケートをお願いしましたところ、1,477名（回答率14%）の方からご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。一部ですが、アンケートの結果をご紹介します。

配当実績（1株当たり年間配当62円）に高いご評価！

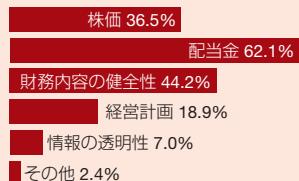
Q1 当社株式を購入された理由についてお聞かせください。（複数回答）

「配当」が40.8%と前回の2位からトップになりました。安定的な配当に取り組む当社の株主重視の姿勢をご評価いただいたものと考えています。



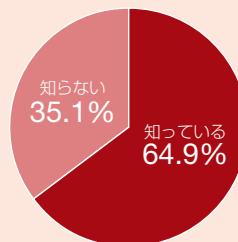
Q2 当社の株式を長期に保有していただくために何を重視されますか？（複数回答）

「配当金」が62.1%で最も支持が多く、次いで「財務内容の健全性」の44.2%となっています。昨年同様、株主の皆さまが配当金を重視していることがうかがえる結果となりました。



Q3 azbilグループのシンボルマークはご存知ですか？

「知っている」が64.9%となり、認知度は前回に比べて2.8ポイント上昇しています。azbilグループのシンボルマークが確実に浸透してきていることがうかがえます。



「azbil」を旗印にグループ社員一丸となって企業価値向上に取り組む、株主の皆さまのご期待にお応えします。

上述のように「azbil」の認知度は高まりつつありますが、一方で「言葉は知っているがそもそもazbilってどういう意味？」というご質問も見られました。

「azbil（アズビル）」とは Automation・Zone・Builder となる造語で、オートメーション領域（Automation・Zone）で新しい価値を創造（Build）していく、という私たちazbilグループが目指す方向を示しています。2006年、山武が創業100周年を迎えたのを機に、グループ理念「人を中心としたオートメーション」を制定し、azbilをそのシンボルといたしました。

制定から3年、これからも「azbil」のもと、グループ理念の追求・実現を通して企業価値を向上させてまいります。どうぞご期待ください。

◆こちらで紹介しきれなかったご意見やご回答は、IRホームページでご覧いただくことができます。

<http://jp.yamatake.com/ir/>

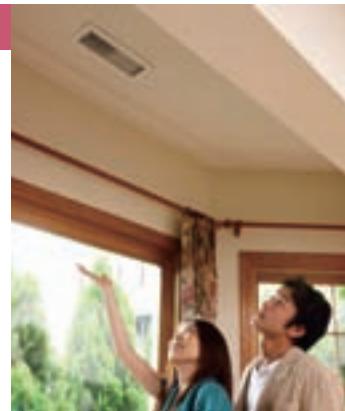
生活に安心、快適をお届けするazbilグループ商品のご案内

“四季を通して快適” しかも 省エネ！

住宅用全館空調システム「きくばり」

「きくばり」は住宅用全館空調システムです。ビルディングオートメーションのパイオニアとしてオフィスやデパート、ホテルなど、様々な建物で国内No.1の実績を誇る山武がお届けします。家じゅうのどこに行っても快適な、温度のバリアフリーを実現します。しかも、電気代は月平均で8千円～1万円くらいで各部屋でエアコンをつけるよりお得です*。また、空気清浄力に優れ、ホコリ、花粉、カビの胞子や0.01μmのタバコの煙粒子も除去します。 *きくばりの実績値とエアコン5台分のカタログ値を比較した場合

システムの設置は、新築時はもちろん増改築時でも可能です。お気軽にご相談ください。



新築・増改築をご計画の方は、
ぜひお問い合わせを

「きくばり」
に関するお問合せ先

E-mail: ask@kikubari.com
フリーダイヤル：0120-87-8349

関連ホームページ： <http://jp.yamatake.com/product/kikubari/>

ボタンひとつでつながる安心のサービス！

「お家でナースホン」^{うち}

～24時間365日体制で、ご利用者さまの緊急通報に対応します。

「お家でナースホン」は、ご家庭に専用の緊急通報装置とペンダント型無線送信機を置いていただき、緊急時にそのボタンを押すだけで、24時間365日いつでも看護師などの専門スタッフと話ができるサービスです。専門スタッフは毎月健康状態を確認する「お伺い電話」情報をもとに適切な対応を行い、必要に応じて救急車の出動要請やご家族や親戚へ連絡を迅速に行います。

また緊急時でなくても、いつもと体調が違う時など相談ボタンを押すことにより、健康状態について気軽に相談することができます。



離れて暮らすご家族がいても、
もう安心

「お家でナースホン」^{うち}
に関するお問合せ先

E-mail: sales@anzen-1.co.jp
フリーダイヤル：0120-377-317

関連ホームページ： <http://www.anzen-1.co.jp/>



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

定時株主総会基準日 毎年3月31日

期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日

中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日

単元株式数 100株

公告方法 当社ホームページ(<http://jp.yamatake.com/ir/>)に掲載しております。
ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人および
特別口座 口座管理機関
事務取扱場所 本店 証券代行部
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 (0120) 288-324 (フリーダイヤル)
受付時間 9:00~17:00 (土日祝日を除く)

特別口座に関する
事務取扱所 みずほ信託銀行 全国各支店
みずほインベスターズ証券 全国本支店

※住所変更等の事務手続は、お取引の証券会社等にてお願いします。

東京証券取引所では、平成21年11月19日(木)以降に設定される基準日等について普通取引の権利付最終日に係る取扱いを以下のとおり変更する予定です。

変更後	変更前
基準日等の3営業日前の日	基準日等の4営業日前の日

これにより、当社株式につきましても、原則として平成22年3月31日の基準日より権利付最終日、権利落日がそれぞれ1営業日後倒しとなり、当該基準日に係る普通取引の権利付最終日は平成22年3月26日となる予定ですので、ご注意ください。

証券コード 6845

株式会社 山 武

<http://jp.yamatake.com/>

〒100-6419 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号(東京ビル)

注意事項

本事業報告書に記載されている当社の現在の計画、目標等の事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、これら見通しと異なることがありますことをご承知おきください。